「江府町まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議」による

平成30年度地方創生事業の検証について

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　開催日　令和元年8月5日

有識者

産　 江府町商工会　会長　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　川端雄勇

官 西部総合事務所　日野県土整備局副局長（江府町担当ｺﾝｼｪﾙｼﾞｭ）　高橋幸男

学　 米子工業高等専門学校　教授 　　　　　　　　　　　　　　　　加藤博和

金 鳥取銀行根雨支店　支店長　　　　　　　　　　　　　　　　　　田中　敦

金 山陰合同銀行江府出張所　出張所長　　　　　　　　　　　　　　薮木弘治

言 新日本海新聞社　西部本社　元編集委員 　　　　　　　　 杉村周二（欠）

--------------------------------------------------------------------------------------------------------

有識者からの意見

－基本目標Ⅰ　住んでみたいまち、帰りたくなるまちづくり－

◆住まいの整備

〇実際に住める空き家の増やす手立てを考えること。

〇移住施策につなげることができるよう、相談内容からニーズを精査し各部署と連携して進めること。

◆にぎわいの創出

〇イベント団体が行政に対してＰＲを期待されていることを認識し、レンタサイクルのようなインバウンド対策も検討し、大山１３００年祭の効果を継続させていくこと。

◆効果的な情報発信

〇奥大山ファンクラブの会員に効果的に情報発信をすること。

〇アクセス件数を伸ばすために、行政情報だけではなく空き家を改修する過程など見る側の興味を引く、おもしろみのある情報発信を検討すること。

〇公衆無線ＬＡＮについて、目標設置個所数にとらわれず、ＰＲの一つになることを認識し、効果的な設置個所については設置した方が良い。

〇テレビによる映像配信にこだわらず、住民に説明した上で見切りをつけることも視野に入れ、現在のインターネットを活用した配信を継続していく。

－基本目標Ⅱ　　すこやかでいきいき暮らせるまちづくりについて－

◆出会い・結婚を支援

○他のイベントを活用して実施することを検討する方が良い。

○NPO法人で取り組むとのこととあったが、進んでいないので委託内容を含め状況を精査すること。

◆切れ目のない子育て支援

○江府町では支援が充実しているように感じる。この支援内容を知って頂く事が必要となる。

◆次世代を担う人材育成

○事業内容の見直しを行い、アントレプレナーシップのような事業を推進を考えても良い。

◆安心の保健医療体制づくり

○受診率は足踏み状態の印象を受ける。

○診療所の経営には医者の体制が重要な要素となる。医師のＳＮＳを活用した情報発信もおもしろいかと思う。

◆高齢者の暮らし

○高齢者共同生活施設整備について、事実上困難であるようなので事業の見直しを行うこと。

－基本目標Ⅲ　産業振興により活力と雇用を生み出すまちづくり－

◆新たな事業の創生

○町独自の奥大山ブランドとして認証するような制度を考えた方が良いのではないか。○すでに出てきている商品で認証されるかもしれない。提出するのもおもしろい。

◆農業の振興

○農業は町の基幹産業であり振興を継続していくべき。

○高収益作物を少しずつでも広げていくための施策を考えたい。

○水稲と高収益作物をあわせたやり方で、集落営農組織と担い手の育成を考えたい。

◆産業の振興

○指標数値の対象店を見直した方が良い。

○プレミアム付地域振興券の販売・利用方法について検討が必要。

◆就労支援の推進

○新規就労者の獲得は重要な部分であり、町外へも間口を広げられたい。